KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SUPER TAIKYU
RACE REPORT 2021

# スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第5戦 SUZUKA S耐

2021年9月18日(土)～9月19日(日)
鈴鹿サーキット（三重県）
入場者数：9月18日　1,700人
　　9月19日　4,600人

## チーム一丸となって戦い抜くも まさかのアクシデントで王座への夢、潰える

## FREE PRACTICE

2021年のスーパー耐久も残すところ2戦。KTMS GR YARISは今季ST-2クラスで3勝を飾りながら、第3戦富士でのリタイアが響きいまだランキングは2位。チャンピオン獲得のためにも最終戦を前に優勝を飾りたい第5戦の舞台は、世界屈指の名コース、鈴鹿サーキットだ。

今回も野中誠太、平良響、翁長実希の3人に一條拳吾を加えた4名で臨むKTMSだが、いわゆるツーリングカーで鈴鹿を走るのは、4人とも初めて。平良がSUPER GTで走ったことがあるくらいで、野中、翁長はフォーミュラ、もしくはそれに近い車両でしか走ったことがない。一條に至っては、なんと鈴鹿初体験だ。

迎えた9月17日（木）の特別スポーツ走行からKTMS GR YARISは走行を重ね、鈴鹿への習熟を深めていったが、そこは才能あふれる若き4人のドライバー。曇り空のもと行われた45分2回の特別スポーツ走行で、KTMS GR YARISで走る鈴鹿を学んでいった。　明けて9月18日(金)は、午前10時30分からグループ1の専有走行がスタートした。ただ、その直前まで行われていたグループ2の走行では、前夜の雨がコースに残っていたもののスリックで走ることが可能だったが、グループ1から雨が降り出した。KTMS GR YARISは翁長が11周、一條が8周と多めに走り、野中、平良もドライブ。一條が2分25秒947をマークし、ST-2クラスのトップタイムをマークした。

午後2時からスタートした専有走行は、全クラス混走。雨脚は時に強くなり、難しいコンディションとなったが、平良が2分41秒211をマーク。クラス2番手につけて走行2日目を終えることになった。

**9月17日　スーパー耐久 STEL専有 Gr.1 結果**

| Pos. | No. | Car Name | Best Time |
|---|---|---|---|
| 1 | 225 | KTMS GR YARIS | 2'25.947 |
| 2 | 59 | DAMD MOTUL ED WRX STI | 2'26.295 |
| 3 | 6 | 新菱オート☆NEOGLOBE☆DXL☆EVO10 | 2'27.326 |
| 4 | 56 | Claris Racing GR YARIS | 2'31.464 |
| 5 | 7 | 新菱オート☆VARIS☆DXL☆EVO10 | 2'31.719 |

**9月17日　スーパー耐久 STEL専有 Gr.1+2 結果**

| Pos. | No. | Car Name | Best Time |
|---|---|---|---|
| 1 | 6 | 新菱オート☆NEOGLOBE☆DXL☆EVO10 | 2'37.049 |
| 2 | 225 | KTMS GR YARIS | 2'41.211 |
| 3 | 7 | 新菱オート☆VARIS☆DXL☆EVO10 | 2'44.589 |
| 4 | 56 | Claris Racing GR YARIS | 2'50.298 |
| 5 | 59 | DAMD MOTUL ED WRX STI | 2'50.501 |

神戸トヨペット

KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SUPER TAIKYU
RACE REPORT 2021

## QUALIFY

9月18日（土）は当初、午前中にフリー走行が用意されていたが、台風14号の影響で前日のうちにスケジュールが変更され、フリー走行は中止。午後1時から予定された公式予選も午後2時から、天候回復の方向だったことからAドライバー予選とBドライバー予選の順番が入れ替えられた。

午後2時からの予選を前に晴れ間が広がり、気温も上がった鈴鹿で、まずKTMS GR YARISをドライブしたのは平良。4周目に2分22秒555をマークするが、クラス3番手。Aドライバーの野中も2分21秒732を記録するもこちらも3番手。今回ストレートスピードが優るランサー勢が速いのだ。ふたりの実力をもってしても及ばぬ結果となった。とはいえ、Cドライバーの翁長、Dドライバーの一條ともにきっちりとアタックを決め、決勝での逆襲へ向け策を練ることになった。

**9月18日　スーパー耐久 公式予選 A Dr./B Dr.**

| Pos. | No. | Car Name | Best Time |
|---|---|---|---|
| 1 | 6 | 新菱オート☆NEOGLOBE☆DXL☆EVO10 | 4'40.275 |
| 2 | 7 | 新菱オート☆VARIS☆DXL☆EVO10 | 4'43.443 |
| 3 | 225 | KTMS GR YARIS | 4'44.287 |
| 4 | 59 | DAMD MOTUL ED WRX STI | 4'45.419 |
| 5 | 56 | Claris Racing GR YARIS | 4'54.681 |

## RACE

土曜午前までの空とはうってかわり、迎えた9月19日（日）は台風一過の青空が広がった。午前8時50分からのフリー走行で、KTMS GR YARISは平良響から野中誠太に交代しながらレースに向けた調整を進め、いよいよ午前11時30分からの決勝レースを迎えた。

KTMS GR YARISのスタートドライバーを務めたのは平良。ST-2クラスでは、序盤から#7ランサー、#6ランサー、#59 WRX STIの3台が三つ巴のバトルを展開していく。平良は4番手で前方で展開されていた戦いを見据えていた。上位3台は速いが、タイヤへの負担が大きいこの鈴鹿で、あのペースで走っていては消耗するはず……。平良は冷静に切り替えると、無理に上位3台を追うことをせず、タイヤを温存しながらラップを重ねた。

オーバーテイクがしづらい鈴鹿は、他クラスの車両を抜いたり、抜かせたりということにも大いに気をつかう。また他クラス車両に詰まるたびに、順位争いが過熱することも多い。平良はペースを守りながら周回を重ねていくと、20周過ぎからチャンスが生まれはじめた。

平良は24周目、まずはタイヤが厳しくなっていた#6ランサーをパスし3番手に浮上する。さらに翌周には#7ランサーをオーバーテイク。これでST-2クラスの2番手に浮上する。一発の速さではライバルに分があっても、ドライバー力、チーム力ではこちらが上だ。平良はきっちりと仕事を果たし、28周を終えピットイン。翁長実希に交代した。

まだまだ上位陣は混戦だが、代わった翁長は2分27～28秒という好ペースでラップを刻む。トラブルの兆候もなく、トップをも見据えるレースを展開していった。

ただ、好事魔多し。54周目、ヘアピンから立ち上がりスプーンへ向かう翁長を、ST-Zクラスの車両がオーバーテイクしていった。翁長は冷静に針路を譲り、スプーンカーブのコーナリングに入っていく。ところが、抜かせたST-Z車両にミスがあったか、コーナー進入で急減速。翁長は動揺する間もなく、ST-Z車両に追突してしまったのだ。

後から車載映像を見直しても、翁長にミスがあったわけではない。しかしKTMS GR YARISはフロントにダメージを負ってしまった。オイルクーラーが衝撃で壊れ、油脂がこぼれてしまっている。ラジエターにも穴が開いてしまった。緊急ピットインで修復作業を行っていく。

KTMS GR YARISはTOYOTA GAZOO Racingの協力も得ながら、1時間20分ほどの作業で修復を完了し、一條拳吾をコクピットに据えピットアウトした。#6ランサーが遅れていたこともあり、3位に入れる可能性もある。一條は57周目にベストラップを叩き出すなど、追い上げムードをみせていた。

ただ、修復こそ完了していたものの、エンジンルーム内に飛んでしまったオイルが熱で煙を上げており、オフィシャルから改善の要求が出されてしまった。オイルを完全に除去するのは至難の業。また危険を冒してでも走行を続けるわけにはいかなかった。チームは苦渋の決断でKTMS GR YARISをピットに戻し、リタイアを決めた。これで、今季のチャンピオンの夢は潰えてしまった。悔しさも残るが、これもレース。戦い抜いた思いを胸に、KTMSは鈴鹿サーキットを後にした。

神戸トヨペット

KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SUPER TAIKYU
RACE REPORT 2021

## DRIVER'S VOICE

### 野中 誠太　SEITA NONAKA

最終的に僕はレースで１周もできずに終わってしまいましたが、専有走行から公式予選までいつもどおり順調に進めていられましたし、予選よりも決勝レースに向けて良いセットアップが見つけられていました。レース前のフリー走行でも良い手ごたえでしたし、決勝も着実に順位を上げられていました。接触については、車載映像を見直しても厳しい状況でしたね。ドライバーは何も悪くないと思いますし、今回は経験だと思っています。今日は歯車が噛み合いませんでしたが、スピードは失われていませんし、最終戦はきっちりと優勝を飾って終えられるようにしたいです。

### 平良 響　HIBIKI TAIRA

レース序盤はライバルたちについていくことができないとすぐに判断し、タイヤを温存することに切り替えました。特にフロントタイヤを労りながら走りましたが、予想があたりライバルたちの前に出ることができました。週末を通じ、予選でも速さではライバルに分があったものの、決勝で追い上げようと思っていただけに悔しいです。シーズンを考えると、ここで勝って最終戦にチャンピオンの芽を繋げたかったのですが……。今回の結果でチャンピオンが決まってしまい、悔しく思っています。最終戦の岡山で勝てるようにまた頑張っていきたいです。

### 翁長 実希　MIKI ONAGA

悔しいですし、悲しい結果になってしまいました。接触については、ST-Z 車両を抜かせた後に、ブレーキを残したまま私のライン上に出てきてしまい、追突するかたちになってしまいました。それまではタイヤマネージメントもできていましたし、周囲を見ながら安全にレースを展開できていたと思います。あの瞬間まではみんなが最高の仕事をできていました。最終戦を前にここでポイントを獲り、チャンピオンの可能性を残して臨みたかったのですが、レースの厳しさ、アクシデントがあり得ることだと改めて勉強しました。もっと強いチームになれるよう努力していきたいです。

### 一條 拳吾　KENGO ICHIJO

特に決勝レースについてですが、感謝しかないです。今回が僕がレースを戦う最後の週末になりましたが、みんなが必死になって KTMS GR YARIS を直してくれたこと、再度コースインできたこともKTMS の強さだと思っています。クルマも速かったですし、悔しいですが良いレースだったのではないでしょうか。最終戦岡山もドライブはしませんが、このチームがすごく好きですし、みんなと一緒にサーキットにいたいです。ただのファンのようですが（笑）、みんなのバックアップができればと思っています。神戸トヨペットさん、キムインターナショナルさんに感謝しています。

**9月19日　スーパー耐久 決勝レース結果**

| Pos. | No. | Car Name | Laps | Total Time | Gap |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 59 | DAMD MOTUL ED WRX STI | 120 | 5:01'59.981 | |
| 2 | 7 | 新菱オート☆ VARIS ☆ DXL ☆ EVO10 | 118 | 5:03'48.850 | 2Laps |
| 3 | 6 | 新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10 | 115 | 5:01'46.070 | 5Laps |
| | 56 | Claris Racing GR YARIS | 74 | 5:02'45.490 | 46Laps |
| | 225 | KTMS GR YARIS | 58 | 3:48'23.949 | 62Laps |

神戸トヨペット